

運動器疾患のなかでも脊椎・脊髄疾患の比率は高く、運動療法や装具療法などの保存療法、手術前後での介入など、理学療法士の多くがかかわる分野である。近年では診断機器や手術方法の進化とともに、高齢の方でも生活の質の向上という観点から脊椎・脊髄の手術を選択することは珍しくなくなった。

本特集では、脊椎・脊髄疾患に対する治療の進歩を確認し、幅広い年代の対象者に対して理学療法士がどのような取り組みを行っていけばよいのかを整理することを目的として企画した。

■脊椎・脊髄疾患に対する外科治療の進歩（石川雅之，他論文）

脊椎・脊髄疾患の分野では画像診断技術の進歩により、病態の正確な把握および診断が可能となっている。また、surgical drillの導入は外科治療に革新的発展をもたらし、さらに instrumentation surgeryの登場により外科的治療の成績は飛躍的に向上している。最近では顕微鏡手術や内視鏡手術などの低侵襲手術も可能となってきた。

■頸椎・頸髄疾患と理学療法（小俣純一，他論文）

頸椎・頸髄疾患による脊髄症状や神経根症状は、日常生活に大きな影響を与えることもあり、重篤な脊髄症状や神経根症状がある場合に手術療法が適応となる。また、頸部疾患で頸部痛・肩こりといった疼痛を訴える患者も多く、異常姿勢を来すこともあることから、ストレッチングなどによる疼痛軽減を目的としたアプローチも必要となる。本稿では、頸椎・頸髄疾患についての概要、評価、また頸部痛に対するストレッチングの効果について述べる。

■胸腰椎・胸腰髄疾患と理学療法（田島泰裕，他論文）

本稿では、胸腰椎・胸腰髄疾患で代表的な腰部脊柱管狭窄症、後縦靱帯骨化症および黄色靱帯骨化症によって生じる障害について概要し、保存的療法と観血的療法後の理学療法について述べる。疾患や疾患の重症度によって症状が違うが、患者満足度を向上させるためにも、患者の訴えに傾聴し、その訴えの原因を正確に評価、治療を行い、それぞれの生活スタイルに合わせた理学療法を提供する必要がある。

■高齢者脊椎圧迫骨折と装具療法（竹井健夫，他論文）

本稿ではまず運動器疾患のなかで、臨床の場面において使用する機会の多い脊椎圧迫骨折の保存療法時に使用する治療用装具の構造と特徴、装具装着時のチェックポイントについて概説する。さらに、理学療法および患者指導における注意点、装具処方から支給までの流れについても述べる。